

第45回全日本大学男子選手権大会

平成22年9月10日(金)~12日(日)

富山県富山市/岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場他



環太平洋大(岡山) 歓喜の初優勝!

日ソ協記録委員 常岡 昇

標記大会は、勇壮な立山連峰を望む富山県富山市・岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場、婦中スポーツプラザにおいて、全国各ブロック予選会を勝ち抜いた精鋭32チームが参加し、開催された。

富山市は、「立山あおぐ特等席。富山市」をキャッチフレーズとし、また、全国初の本格的なLRT(次世代型路面電車システム)が運行されるなど、公共交通を軸に、豊かな自然・伝統文化が融合した魅力あふれる街である。大会は、今年の「猛暑」を象徴するように、連日30度を超える気温の中、行われた。

大会の最終日が、午前中一時雷雨に見舞われたものの、約3時間試合開始時刻を遅らせて、試合がスタート。日没までに無事決勝戦が終了し、全日程を終了することができた。

試合は、初日に1回戦16試合が行われ、昨年準優勝の福岡大(福岡)が、強豪・国士舘大(東京)と対戦。1-5で敗れ、初戦敗退となった。また、1点差の試合は1試合のみで、3点差以上の試合が多く、9試合がコールドゲームとなった。

2日目は、2回戦8試合と準々決勝が行われ、昨年の覇者であり、今大会3年連続29度目の優勝を狙う日本体育

大(東京)が、2回戦で中京大(愛知)に5-6で敗れる大波乱。攻守に明暗が分かれ、得点差の開いた試合が目立った。

ベスト4には、元日本代表の「エース」であり、「世界の舞台」で活躍した西村信紀監督のもと、創部4年目で初優勝を狙う環太平洋大(岡山)。13年ぶりの決勝進出を狙う関西大(大阪)。昨年は準決勝で日本体育大(東京)に0-4で敗れ、3位。14年ぶりの決勝進出を狙う同志社大(京都)。18年ぶり4度目の優勝を狙う中京大(愛知)が勝ち上がり、西日本勢が独占する形となった。

最終日は、初優勝を狙う環太平洋大(岡山)と、同志社大(京都)がそれぞれ接戦を制し、決勝に進出。

決勝は、初優勝を狙うチーム同士、優勝を目前にした固さからか、両チーム合わせて5失策と守備の乱れが目立つ試合となったが、初回からリードを奪った環太平洋大(岡山)が、創部4年目で念願の初優勝を飾った。

〈準決勝〉

環太平洋大	10000001	2
関西大	10000000	1

(環) ○嶋田一山下
(関) ●藤井一瀬戸
▽困松崎(環) ㊦原田(関)
〔審〕P浜村 1丸田 2渡辺 3山下
〔記〕土谷

先攻の環太平洋は初回、1番・松崎の先頭打者本塁打でいきなり1点を先制。しかし、関西もその裏、一死・二塁から4番・川口の右前適時打ですぐさま同点に追いつき、その後は両チーム一歩も譲らず1-1の同点のまま、試合は最終回を迎えた。

環太平洋は7回表、2番・西山が内野安打で出塁し、一死後、二盗を成功させ、さらに4番・山城のライトフライでタッチアップから三塁を狙うと、これを刺そうとしたライトから三塁への送球が悪送球となり、幸運な勝ち越し点を奪った。

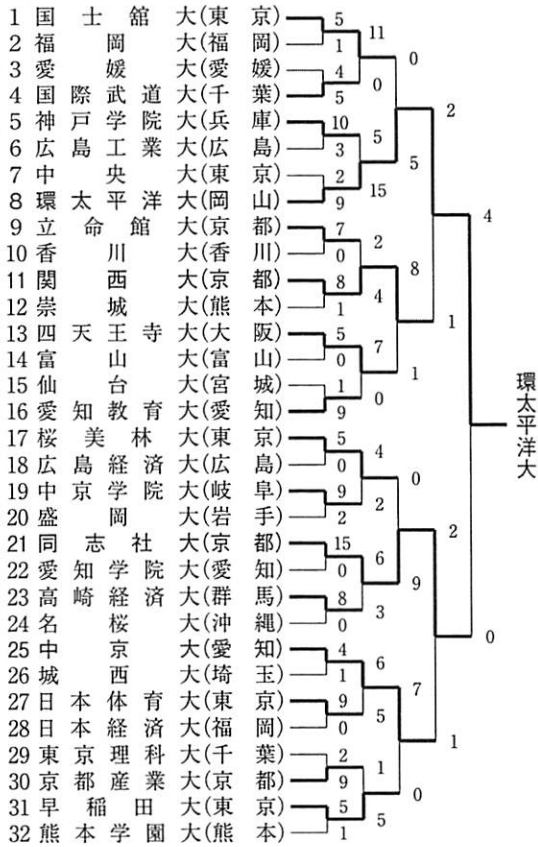
守っては、エース・嶋田が初回に1点を失ったものの、2回以降は立ち直り、完投勝利。念願の初優勝に「王手」をかけた。

〈準決勝〉

中京大	10000000	1
同志社大	000200x	2

(中) ●深津一秋屋

第45回全日本大学男子選手権大会



(同) ○垣迫一永見
 △困岡田(中)
 (審) P金平1山本 2関口 3山岸
 (記) 八島
 1点をリードされた同志社は4回裏、1番・椎葉が敵方で出塁すると、一死後、3番・木山の安打と重盗で二・三塁とチャンスを広げ、4番・田子の中前適時打で2点を奪い、逆転に成功。守っては、先発・垣迫が粘り強いピッチングで完投。7回を最少失点に抑え、14年ぶりの決勝進出を決めた。

一方、17年ぶりの決勝進出をめざした中京は、初回到2番・岡田の右越本塁打で1点を先制したが、惜しくも逆転負け。4回裏に守備の乱れから失点し、惜しい試合を落とした。

環太平洋大
 100003000
 00000000
 0 4

同志社大
 (環) ○嶋田一山下
 (同) ●垣迫一永見
 △瀨戸(同)
 (審) P安川 1原井 2位寄 3作道
 (記) 田中

「初優勝」をかけたチーム同士の対戦となった決勝は、環太平洋が初回に二死一・二塁のチャンスを作り、5番・佐伯が投手強襲安打。この打球を処理した捕手が一塁へ悪送球する間に、



健闘を見せた準優勝・同志社

二塁走者が生還。1点を先制した。5回表には、一死から1番・松崎が中前安打で出塁し、二死後、3番・能瀬の内野安打で一・三塁。4番・山城の右前安打に相手守備の乱れが絡み、2点を追加。さらに二死三塁とチャンスが続き、5番・佐伯の左前適時打でこの回3点目を挙げ、同志社を突き放した。守っては、エース・嶋田が毎回のように走者を出すものの、要所を抑え、「初優勝」を完封で締めくくった。

一方、同志社は初優勝を目前にした固さからか、3失策がいずれも失点に絡み、打線も好投手・嶋田から5安打を放ったが、最後まで得点を奪えず、完封負け。決勝は来年への課題を残す試合となった。

●第45回全日本大学男子・女子選手権大会を終えて
 全日本大学連盟常任理事 黒田 重晴

文部科学大臣杯・第45回全日本大学男子・女子選手権大会が、富山県富山市・岩瀬スポーツ公園ソフトボール場・婦中スポーツプラザにおいて開催された。

大会は、2日目まで順調に進んだが、3日目(最終日)の朝に局地的な豪雨となり、グラウンドが水浸しとなった。雨が上がりると同時に、競技役員、会場スタッフが素早くグラウンド整備に当たり、奮闘した結果、予定より3時間遅れの12時から試合が開始され、準決勝、決勝が行われた。

男子は、環太平洋大(岡山)が創部4年目にして初優勝を成し遂げ、準優勝の同志社大(京都)とともに、攻守に素晴らしいチームであった。

女子は、「古豪」の東京女子体育大(東京)が8年ぶり15度目の優勝。準優勝の武庫川女子大(兵庫)も24年ぶりの決勝進出を果たし、2度目の準優勝となった。

男子の決勝は、両チームともに「鋭」同士の対戦。女子の決勝は、「古豪」同士の対戦となり、男子と女子を比べると、時代と勝負の厳しさを映し出したような、まさに対照的な決勝戦であったと思う。

印象に残った選手としては、男子、女子でともに優勝投手となった環太平洋大・嶋田智希、東京女子体育大・平原かずみ投手の好投が際立った。

また、今大会は終始極めて整然と運営が行われ、富山市・県協会の「組織力」の強さが印象深かった。